

令和7年 第875回小浜市教育委員会定例会 会議録

開催日時	令和7年1月17日(金)		開会 16:00 閉会 17:00		
開催場所	市庁舎4階401会議室				
出席委員	窪田教育長	上田職務代理者	村上委員	桂田委員	坂下委員
欠席委員					
事務局	谷教育部長	畑田教育部次長	日比野生涯学習 スポーツ課長	松宮主幹	井上課長補佐
	赤崎課長補佐	安田企画主査	大橋指導主事		
傍聴者					
会 議				会議の結果	
<p><b>委員会開会</b></p> <p>(教育長) 宣言および開会あいさつ</p> <p>本日、教育委員の皆様には小浜第二中学校の学習発表会にご参加いただき、3年生がこれまで総合的な学習の時間に取り組んできた探究的な学びの発表を観ていただいた。後ほど感想等をお聞かせいただきたい。</p> <p><b>1 会議録の承認について</b></p> <p>第874回教育委員会定例会会議録 《承認》</p> <p><b>会議録署名人2名の選任</b></p> <p>第875回教育委員会定例会会議録署名委員選任 《村上委員、坂下委員》</p> <p><b>2 報告</b></p> <p>・報告第1号 諸般の報告 令和6年12月20日～令和7年1月16日 行事予定 令和7年1月17日～令和7年2月28日 《承認》</p>					

### 3 議案

- ・議案第1号 小浜市教育委員会顕彰規則に基づく被表彰者の決定について 《承認》

### 4 教育長報告

- ・小浜の未来を担う総合教育事業 学習発表会（小浜第二中学校）について

教育長 教育委員の皆様には、小浜第二中学校で開催された学習発表会にご参加いただき感謝申し上げます。参観いただいた感想やお気づきの点などがあれば報告いただきたい。

上田職務代理者 中学3年生が自ら課題を設定して探究的な取り組みを進め、しっかり発表できていることに感心した。「小浜市の活性化のために健康食を広める」「障がい者理解」「観光客を増やす」といった難しい課題に一生懸命取り組んでおり、こちらも勉強になった。

村上委員 最初からしっかりと目的を決め、端末を活用して多くの情報を収集したうえで論理的な思考で取り組みを進めており、非常にレベルの高い内容だった。発表に関しても堂々とした態度でしっかりと意見を述べており、全体的に探究学習の力が向上していることを実感した。また、見学に来ていた小学生が非常に熱心に中学生の発表を聴いており、小学生の探究活動に向かう姿勢も向上していると感じた。

桂田委員 どの発表もしっかり自分の言葉で堂々と話すことができていた。小浜をPRする手段としてゲームを作ろうと考え取り組むなど、課題解決に向けた生徒達の視点とアイデアに感心した。

坂下委員 先ずデータを収集し提示したうえで、自身の興味関心と組み合わせた課題を設定し探究を進めていくという一連の流れとその発表については、どのグループもよくできていると思った。ただ、計画を立てて実行し、問題点を見つけて改善していくという取り組みの進度や深さについては、ばらつきがあると感じた。生徒の自主性は大事であるが、もう少し指導者が目を配り、必要な助言やフォローをしていけるとよいと思う。

また、参観者が感想を述べる中で、高校生が非常に的確にアドバイスをしており、発表者にとって良い刺激になったのではないかと感じた。参観していた小学生にも“こんなふうになりたい”と感じてもらえたのではないかと感じた。

教育長 小浜第二中学校では、これまでの“教員が学年ごとに共通のテーマを設けてその枠組みの中で生徒に考えさせる形式の学び”と決別して縦割りのグループ編成とし、“17の開発目標に沿って同じ興味関心を持つ1年生から3年生が1つのグループを形成する中で、異学年間の交流を重視しながら研究そのものは同学年の少人数で進めていく”という体制に変更して今年で4年目になるが、そのシステムが上手く回り、生徒の学びに好影響を与えていると思う。その中で、生徒の発表を聴いた高校生が非常に的確なアドバイスをされていた。アドバイスには褒めるだけではない厳しい意見もあったかと思うが、確かに日頃の探究活動の中でもう少し教員が関わり踏み込んだ問いかけをすることで、もっと深まりのある探究ができたのではないかと感じる発表もあった。自主的な学びにおいては、生徒のやる気を向上させる教員側の働きかけが必要であり、“教えないでどう支援していくか”ということが今後一層重要になってくると思っている。また、高校生の探究と比較して最も大きいのは、知識の差であると感じている。基本的な知識や技能が不足している中で探究的な学びを進めると、どうしても内容の浅いものになってしまう。普段の教科の学習が重要であり、それが基礎となって探究に繋がっていくのだということ子どもたち自身が理解し、“探究的な学びを軸にしながら教科の学習で得た知識や技能をリンクさせないと、自身の探究を深めることは難しい”ということに気づけるような仕掛け作りの必要性も感じた。全国的にみると、探究学習が重要だと考えている高校生の割合が予想以上に低いという調査結果もある。その点、小浜市は「子どもたちが自分の人生のキャリアプランと故郷小浜の未来を関わらせながら、どのように志を果たしていくのか」を考えさせていくことを重視して、これからの時代に求められる資質能力の育成に注力している。ぜひ、小浜市の中学生や高校生から、探究的な学びと教科の学びが一体的に広がり深められることによる成果を自信をもって発信できるような総合的な学力をつけてもらいたいと願っている。

村上委員 小学生も中学生も探究学習に魅力とやりがいを感じながら取り組んでいると思う。それがまた教科の学習に繋がっていくと非常によいと感じる。

教育長 教科の学習と探究的な学びの力がリンクして、大きな軸になっていくとよいと思っている。

## 5 その他

・市町村教育委員会研究協議会 分科会（テーマ：不登校対策、部活動の地域移行）報告

上田職務代理者 部活動の地域移行について、指導者の報償費など財務的な面が共通の課題事項であった。国としての方向性をしっかり示してほしいということをお願いした。

坂下委員 部活動の地域移行については、グループ内の市町村では小浜市が一番進んでいた。不登校対策について、ICTを活用した取組みを質問したところ、生徒が自宅から参加できるように授業を生中継している等、それぞれの自治体で工夫した取組みがなされていた。登校しにくい児童生徒には、小浜市のふれあいスクールのような適応指導教室等において、学習の保障という大きな役割に加えて、そこが自宅や学校の教室以外の“もう一つの居場所”となるような取組みを進めることや、周りの人との信頼関係を築くことなど、一人ひとりのニーズに合わせた柔軟な対応が大事だという意見を聞き、その通りだと感じた。

また、不登校を未然に防止するための取組みとして、心の健康観察アプリ「LEBER」を導入している自治体があった。毎朝子どもが入力した心身の状況のデータをAIが分析し、アラートで表示された子どもがいた場合には担任が声をかける。そして、担任が確実に声掛けできたかどうかを管理職が確認する。という仕組みが作られており、実際にいじめの早期発見や家族とのトラブルの発見につながった事案があったということを紹介していただいた。

村上委員 部活動の地域移行については、自分が参加したグループにおいても小浜市が一番進んでいた。不登校対策については、民間のフリースクールに行政側の指導主事が訪問して学習内容を確認し、登校として取り扱っている自治体があった。また、適応指導教室での学習内容がインターネットを介してリアルタイムで学校へ送信される自治体もあった。他にも、学校のホームページから保護者が気軽に学校へ質問や相談ができるようにしている自治体があった。学校と保護者のコミュニケーションツ

ールとしてICTを活用することも有効ではないかと思う。

桂田委員 不登校対策については、中学校区ごとに教育支援センターを設置して不登校の児童生徒への学習指導や保護者への教育相談を行っている自治体があり、5年前に比べて不登校児童生徒が2割減少したということであった。部活動の地域移行については、指導者を公募している自治体があり、指導していただける方に自ら手を挙げてもらうことも大事だと思った。

**委員会閉会** (教育長) 宣言

この会議録が真正であることを確認して署名する。

小浜市教育委員会議事録署名委員

委員 村上 郁子 教育委員

委員 坂下 貴洋 教育委員